

学校だより
「まんだ」
No.15

自他を大事にする子供 学び続ける子供 共に未来を切り拓く子供



認める力

やりぬく力

表現する力

2025年お世話になりました

この1年間、小さなトラブルやケガは、いくつもありませんでしたが、幸い、命にかかわるような大きな事件や事故はありませんでした。これも、保護者の皆様や地域の方々の支えがあったからこそと感謝申し上げます。

かつて私が担任をしているとき、クラスの子供たちによく話をしていました。「子供は学校に来て勉強するのが仕事」と。そして続けて「仕事だから、来たくなくても来なきゃいけない。少々嫌なことがあっても、学校に来て解決するのが仕事だよ。」と。すると、気が利いた子が、「じゃあ、給料もらえるんですか？」というので、「もらえるよ。将来ね。」と答えていました。加えて「みんなが学校に来て楽しく勉強してくれたら、周りの友達も先生もおうちの方もうれしくなる。周りの人を喜ばせるのは、仕事をしているのと同じでしょ。」とっていました。

先日、3年生の木版画の授業にお邪魔しました。彫刻刀を使うから、安全面で大人の目がたくさんあった方が良さというのです。ところが、大人の目はたくさんあっても、道具が少ないもんだから、「彫り」が終わった子から「刷り」に移ったところで、待ちの列ができてしまいます。すると、隣のクラスの先生が「うちは使わないから、後片付けしてくれるなら、うちの道具を使っていいけど。」と申し出てくれました。申し出を受けた担任の先生は、逡巡している様子。（たくさんありすぎて、制御・管理できないかもと悩んでいるのか？）すると、男の子が「僕、後片付け手伝いますよ。」と口火を切ると、「私も後片付け手伝います。」と次から次に。

人のために自分ができることをする。その気持ちが集まってクラス全体が学びの場となる。おかげで、版画の学習をほぼ終わることができました。（けが人も出ずに済みました。）担任の先生も、「みんなのおかげで、スムーズに学習を進めることができた。」と子供たちにお礼を言っています。人のために学ぶことの心地よさを感じたこの子供たちは、将来、人のために働く立派な大人になっているでしょう。

2025年、大変お世話になりました。2026年が、皆様にとって良い年となりますよう、お祈りいたします。来年もよろしくお願いします。



給食集会の話

昨年度の給食集会は、給食センターからゲストティーチャーを招いての集会でしたので、体育館で行いました。対面でしたので、「校長先生のお話」では、ピーナッツの燃焼実験を行いました。ピーナッツはエネルギーの塊ですから、火をつけるとろうそくのように燃えるのです。しかし今年度は、インフルエンザが流行していることもあり、放送による集会にしました。放送ですから、実験して見せるわけにもいかず、さてどうしたものか・・・。

子供が喜ぶ話と言えば「うんこ」の話。ということで、「校長先生のお話」では、トウモロコシの粒を、噛まずに飲み込むと、2日後に「うんこ」に混ざって出てきたという話をしました。なんとも品のない話ですが、これは立派な実験で、食べ物、体の中をおよそ2日間旅して消化・吸収されているということが分かります。我々は食べ物からエネルギーをいただいて、およそ40～60兆個と言われる細胞にいきわたらせているんです。我々の体は、本当によくできています。そして、食べ物が消化・吸収された後の残骸、これが「うんこ」です。「うんこ」にも感謝です。

先日、1年生から唐突に「校長先生、うんこしたろ。」と笑われました。うんこの話をしたのとうんこをしたのでは、だいぶ違います。？？いやいや、給食集会に寄せて、「食べ物」の話をしたんです。